

言語聴覚学総論

[講義] 第4学年 後期 選択 4単位

《担当者名》 下村敦司 shimo@hoku-iryo-u.ac.jp 太田亨 才川悦子 榊原健一 鈴木瑞恵 福田真二 永見慎輔
森元良太 飯泉智子 葛西聡子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 若松千裕 辻村礼央奈 米田龍大
飯田貴俊 山下建

【概要】

国家試験の出題基準を手がかりに、これまでの学修成果を包括的に整理・学修し、言語聴覚療法に関する基礎および専門分野の知識の定着を図る。

【学修目標】

<一般目標>

言語聴覚士として必要な知識や技術を適切に備え、これらを実践の場で活用するために、これまでに学んだ言語聴覚療法に関する基礎および専門分野の知識の整理統合を行う。

<行動目標>

1. 言語聴覚療法に必要な基礎知識（基礎医学、心理学、音声・言語学、社会福祉・教育などの領域）について説明できる。
2. 言語聴覚療法の対象となる疾患と障害の成り立ちおよび症状について説明できる。
3. 言語聴覚療法の検査・診断およびこれらの実施方法について説明できる。
4. 言語聴覚療法の治療法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	科目の概要、学習目標、講義日程、学習内容、評価方法、推薦図書、学習の準備、学習ノートの作成方法等を理解する。	榊原健一
2	基礎医学	医学総論、解剖学、生理学について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	下村敦司
3	基礎医学	統計学について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	森元良太 米田龍大
4 5 6	臨床医学	病理学、内科学、神経学、小児科学、精神医学、リハビリテーション学、耳鼻咽喉科学、臨床神経学、形成外科学、歯科学について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	太田亨 飯田貴俊 山下建（非常勤講師）
7 8	音声聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態、聴覚系の構造・機能・病態、および神経系の構造・機能・病態について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	才川悦子
9 10	心理学	認知・学習心理、心理測定法、臨床心理学、生涯発達心理学について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	永見慎輔
11 12 13	音声・言語学	音声学、音響学、聴覚心理学、言語学、言語発達学について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	榊原健一 福田真二
14	社会福祉・教育	関係法規について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	柳田早織
15 16	失語症	失語症の定義、言語症状と失語症候群、評価・診断、訓練・援助、後天性小児失語症について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	若松千裕
17 18	高次脳機能障害	神経心理学の基本概念、各種高次脳機能障害の病巣・症状・検査、高次脳機能障害の指導・訓練について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	鈴木瑞恵
19 20 21 22	言語発達障害学	言語発達障害の総論、評価、指導・訓練について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	福田真二 小林健史 辻村礼央奈

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
23) 26	発声発語・摂食嚥下障害学	音声障害、構音障害、吃音、摂食嚥下障害について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	柳田早織 飯泉智子
27) 30	聴覚障害学	小児聴覚障害、成人聴覚障害、補聴器・人工内耳、視聴覚二重障害について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	才川悦子 前田 秀彦 葛西 聡子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題、小テスト（筆記試験）および定期試験（筆記試験）100%

試験実施後、問題に対する疑義に対しては、解説および模範解答を開示する。

【教科書】

広瀬肇 監 「言語聴覚士テキスト 第4版」 医歯薬出版 2025年

【参考書】

医療研修推進財団 監 「言語聴覚士国家試験出題基準平令和5年4月版」 医歯薬出版 2023年

言語聴覚士国家試験対策委員会 編 「2027年版 言語聴覚士国家試験 過去問題3年間の解答と解説」 大揚社 2026年（出版予定）

上月正博 監 「言語聴覚士 国家試験マスターノート」 メジカルビュー社 2023年

その他、各領域の専門の教員が適宜、紹介する。

【備考】

1. 講義は、9月から11月の間で変則日程で開講されるので注意する。相当数の補講の実施が予定されている。

2. 開講日時は掲示等で発表される。常に掲示を確認して、開講日時の変更に留意すること。

3. 授業に関わる連絡、授業資料の配信、学習課題の提示

- ・ 授業に関わる連絡はmanabaさらにi-Portalを利用する。
- ・ 授業資料の配信はmanabaまたはGoogle Classroomを利用する。
- ・ 学習課題の提示はmanabaまたはGoogle Classroomを利用する。

4. 授業に関する意見交換

- ・ manabaまたはGoogle Classroomを利用する。

5. 授業の理解度把握

- ・ manabaのアンケート機能を利用する。

【学修の準備】

各領域の専門の教員がオムニバス形式で講義をするので、それぞれの担当教員の指示に従って予習（80分）と復習（80分）を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木瑞恵、永見慎輔、飯泉智子、葛西聡子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、若松千裕、辻村礼央奈（言語聴覚士）

太田亨、才川悦子、山下建（医師）

飯田貴俊（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

鈴木瑞恵、永見慎輔、飯泉智子、葛西聡子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、若松千裕、辻村礼央奈：医療機関での言語聴覚士としての臨床経験を活かし、言語聴覚障害学の各領域に関する知見や各障害の評価・リハビリテーションについて講義を行う。

太田亨、才川悦子、山下建、飯田貴俊：医療機関での実務経験とその知識を活かし、講義を行う。